

第1・2学年 算数科学習指導案

令和2年11月19日(木) 5校時 1年生 6人 2年生 2人 計8人 指導者 山下 寛樹

1 児童の実態

検証過程	実態調査(◇)と3・4学年授業研究(○)に基づく検証内容
終末	○考え方や計算の仕方を説明する際には、ICT機器の活用を推進する必要がある。【手立て①】
習熟	◇タブレットやパソコンを使った授業は、自分が本当に分かったかどうか、確かめることができる。 (とても思う 30.4 少し思う 26.1 あまり思わない 13.0 全く思わない 21.7) ○効果的な習熟を図るために、デジタル教材やICT機器を使う必要がある。 →習熟の過程において、学習で習得した新たな概念の定着を図るために、タブレットPC等を有効に活用する指導の工夫が必要である。【手立て②】
導入	○学習への動機付けを図るために、予習内容を教材や目的に応じた動画や写真を使う必要がある。 【手立て③】
	◇課題解決のための学習のめあてを、自分なりに立てることができる。 (とても思う 43.5 少し思う 26.1 あまり思わない 13.0 全く思わない 13.0) →導入の過程において、既得の概念や学習課題に基づいて、自分なりに学習のめあてを立てる指導の工夫が必要である。【手立て④】

2 題材について

第1学年「ひきざん」	
減法の意味について理解し、それらが用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりする。また、1位数と1位数の繰り下がりのある減法の計算ができる。 数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりする。	
第2学年「かけ算(2)」	
身近な事例をもとに6の段から9の段、および1の段の九九を構成させ、その中で、被乗数、乗数、積の関係や、交換法則などの乗法の決まりを見つけ出せるようにする。また、乗法の適用場面を広げたり確かめたりさせるとともに、進んで生活に生かそうとさせる。	

3 学習計画 (第1学年全11時間+1時間/第2学年全11時間+1時間)

時数	第1学年「ひきざん」	第2学年「かけざん(2)」	時数
1	【手立て④】 教科書に記載されている「見方・考え方」の枠や、イラストの子どものつぶやきに注目することを押さえて、予習の仕方を指導する。		1
2	○問題が減法の用いられる場面であることに気づき、答えの求め方を考える。	知 ○6の段を構成することができる。 ○乗数が1増えると、積は被乗数分だけ増えることを理解する。	態 2
3	○繰り下がりがある減法の計算では、10から先に引けばよいことに気づき、計算することが出来る。	思 ○6の段の呼称を知り、暗唱する。 ○6の段の九九を用いて、問題を解決する。	思 3
4	○減々法の計算のしかたを考え、繰り下がりのある減法の計算をする。	思 ○7の段を構成することができる。 ○乗数が1増えると、積は被乗数分だけ増えることを理解する。	思 4
5	○減法の問題について、いろいろな計算のしかたを考え、説明する。	思 ○7の段の呼称を知り、暗唱する。 ○7の段の九九を用いて、問題を解決する。	思 5
6	○減法が用いられる場面であることに気づき、立式して答えを求めることができる。 ○繰り下がりのある減法の問題に取り組む。	思 ○8の段を構成することができる。 ○乗数が1増えると、積は被乗数分だけ増えることを理解する。	思 6
7	○減法の問題作りを通して、減法の意味を確かめ、式と具体的な場面を結びつける。	態 ○8の段の呼称を知り、暗唱する。 ○8の段の九九を用いて、問題を解決する。	思 7
8	○繰り下がりのある減法のカードを作って練習をする。 ○カードを使ってゲームなど楽しく遊びながら、計算力を高める。	態 ○9の段を構成することができる。 ○乗数が1増えると、積は被乗数分だけ増えることや理解する。	思 8
9	○減法のカードで答えが同じになるカードを集め、整理することで、被減数を減数の関係に気付く。	思 ○9の段の呼称を知り、暗唱する。 ○9の段の九九を用いて、問題を解決する。	思 9
10	○合併場面、求残場面の文章題を読んで、加法、減法のどちらを用いればよいかを考え、適切な演算を用いて計算する。	態 ○1の段を構成し、暗唱することができる。 ○1の段の九九を用いて、問題を解決する。	思 10
11	○増加場面、求差場面の文章題を読んで、加法、減法のどちらを用いればよいかを考え、適切な演算を用いて計算する。	態 ○問題文の仕組みを読み取って加法・減法と乗法の演算決定をし、情報の理解を深める。 ○具体物の操作を基に、解き方を絵や図、式や数字	思 11
12	○既習事項の確かめをする。	態 ○既習事項の確かめをする。	態 12

4 前時の終末

指導上の留意点	主な学習活動 (第1学年)	主な学習活動 (第2学年)	指導上の留意点
<p>【手立て③】 ○学習への動機付けを図るために、スライドを活用して問題を提示する。 ○家庭で課題が分かるように、問題と動画で使用した画像を配布し、ノートに貼らせる。</p> <p>【手立て④】 ○これまでの足し算や引き算の文章題を想起させ、何に注目したかを確認する。 ○自ら学習のめあてが立てられるようにする。</p>	<p>課題1 さるは、ぜんぶで なんびき いますか。 課題2 りんごが 16こあります。そうが 7こ たべました。のこりは、なんこに なりましたか。</p> <p>6 計算のしかたを考える。</p> <p>めあて どんな ことばにちゅうもくすると なにざんか わかるだろうか。</p>	<p>課題 1 チーム9人でやきゅうをします。4チームでは、何人になりますか。</p> <p>6 9の段を構成し、9の段の決まりを考える。</p> <p>めあて 9の段にはどのような決まりがあるのだろうか。</p>	<p>【手立て③】 ○学習への動機付けを図るために、スライドを活用して問題を提示する。 ○家庭で課題が分かるように、問題と動画で使用した画像を配布し、ノートに貼らせる。 ○今まで学習した2～8の段の決まりが使えないか問い、自立解決に向けて、解決の見通しをもたせる。</p> <p>【手立て④】 これまでのノートを振り返らせ、今まで学習したことをもとに自ら学習のめあてが立てられるようにする。</p>

5 本時の予習 (自宅学習におけるノート記述)

(第1学年)	(第2学年)
<p><既習事項> 繰り上がりのある足し算と繰り下がりのある引き算のやり方 (記述1) 「ぜんぶで」があるから足し算 (記述2) 「のこりは」があるから引き算</p>	<p><既習事項> 2～8の段のかけ算の構成 (記述1) 答えが9ずつ増えている。 (記述2) かける数が1増えると、答えは9増える。 (記述3) かけられる数とかける数を入れ替えても答は同じ。 (記述4) 一の位が9, 8, 7……と順番になっている。 (記述5) かけられる数やかける数を分けても答は変わらない。</p>

6 本時の目標

目標	
(第1学年)	(第2学年)
繰り上がりや繰り下がりのある、合併場面、求残場面の文章を読んで、加法、減法のどちらを用いればよいかを考え、適切な演算を用いて計算する。	9の段を構成し、乗数が1増えると、積は被乗数分だけ増えることや乗数と被乗数を入れ替えたり、乗数を分けたりしても答は変わらないことを理解する。

7 本時 第1学年 (10/12) <態度>

第2学年 (8/12) <思考>

指導上の留意点	主な学習活動 (第1学年)		主な学習活動 (第2学年)	指導上の留意点
<p>ロイロノートを使って自分の発表を撮影し、既習事項を発表できているか自分で見直しをさせる。 画面でロイロノートを使って自分の考えを発表する。 学び合いの想定シートを基に「とも学び」をつないでいく。</p> <p>【手立て①】 計算の仕方を、動画を活用して確かめる。 子どもの言葉を使ってまとめることができるように、考えをそれぞれ短くまとめさせる。 算数の力の問題に取り組む時間を十分確保することで、さらなる定着を図る。</p> <p>【手立て③】 学習への動機付けを図るために、スライドを活用して問題を提示する。 ○家庭で課題が分かるように、問題と動画で使用した画像を配布し、ノートに貼らせる。</p> <p>【手立て④】 これまでの足し算や引き算の文章題を想起させ、何に注目したかを確認する。 今まで学習したことをもとに自ら学習のめあてが立てられるようにする。</p> <p>【手立て④】 これまでのノートを振り返らせる。</p>	<p>1 自分の考えを発表する様子を友達とお互いにロイロノートを使って撮影し、発表の練習をする。</p> <p>2 自分の考えを説明する。</p> <p>3 文章題のどこに注目したかをまとめる。</p> <p>めあて 「ぜんぶで」があるからたしざん、「のこりは」があるからひきざんになった。</p> <p>4 「算数の力」の問題に取り組む。</p> <p>5 次時の課題をつかむ。</p> <p>課題1 ペンギンが しまに8わいます。3わくると なんわになりますか。 課題2 とらと ライオンでは、どちらが なんと おおいでしょうか。</p> <p>6 次時のめあて</p> <p>めあて どんな ことばにちゅうもくすると なにざんか わかるだろうか。</p>	<p>展開 20分</p> <p>教師は必要に応じて、「わたり」を行う。</p> <p>終末 10分</p> <p>習熟 10分</p> <p>導入 5分</p>	<p>1 自分の考えを発表する様子を、ロイロノートを使って撮影し、発表の練習をする。</p> <p>2 自分の考えをお互い説明し合う。</p> <p>3 9の段の構成や性質についてまとめる。</p> <p>まとめ ○9の段はかける数が1増えると、答えは9増える。 ○9の段もかけられる数とかける数を入れ替えても答えは同じになる。 ○9の段の答えの1の位は、9, 8, 7……と順になっている。</p> <p>4 かけ算カードで ICT 機器を使って9の段の定着を図る。</p> <p>5 次時の課題をつかむ。</p> <p>課題 バケツが4こあります。バケツ1こには、水が9L ずつ入っています。水はぜんぶで何Lありますか。</p> <p>6 次時のめあて</p> <p>めあて 一つ分の数に注意して問題を解こう。</p>	<p>ロイロノートを使って自分の発表を撮影し、既習事項を発表できているか自分で見直しをさせる。 画面でロイロノートを使って自分の考えを発表する。 学び合いの想定シートを基に「とも学び」をつないでいく。</p> <p>【手立て①】 かけ算の決まりを、動画を活用して確かめる。 子どもの言葉を使ってまとめることができるように、見つけた決まりをそれぞれ箇条書きでまとめさせる。 かけ算カードを使い反復練習することで9の段の九九の定着を図る。</p> <p>【手立て②】 ICT 機器を使ってランダムに出る9の段の九九の問題を解くことで更なる定着を図る。</p> <p>【手立て③】 学習への動機付けを図るために、動画を活用して問題を提示する。 家庭で課題が分かるように、問題と動画で使用した画像を配布し、ノートに貼らせる。</p> <p>【手立て④】 これまでのノートを振り返らせ、今まで学習したことをもとに自ら学習のめあてが立てられるようにする。</p>

※別紙

検証過程	実態調査 (◇) と 3・4 学年授業研究 (○) に 基づく検証内容	手立て
終末	○考え方や計算の仕方を説明する際には、ICT 機器の活用を推進する必要がある。	① (1 年生) 繰り上がりのある足し算と繰り下がりのある引き算の計算の仕方を図や絵で表したのをスライドで提示する。 (2 年生) かけ算の決まりをスライドで提示する。
習熟	◇タブレットやパソコンを使った授業は、自分が本当に分かったかどうか、確かめることができる。 (とても思う 30.4 少しそう思う 26.1 あまり思わない 13.0 全く思わない 21.7) ○効果的な習熟を図るために、デジタル教材やICT機器を使う必要がある。 →習熟の過程において、学習で習得した新たな概念の定着を図るために、タブレットPC等を有効に活用する指導の工夫が必要である。	② (2 年生) タブレット端末に入っている計算アプリを活用して、かけ算の定着を図る。
導入	○学習への動機付けを図るために、予習内容を教材や目的に応じた動画や写真を使う必要がある。	③ 学習への動機付けを図るために、スライドを活用して問題を提示する。
	◇課題解決のための学習のめあてを、自分なりに立てることができる。 (とても思う 43.5 少しそう思う 26.1 あまり思わない 13.0 全く思わない 13.0) →導入の過程において、既得の概念や学習課題に基づいて、自分なりに学習のめあてを立てる指導の工夫が必要である。	④ これまでの学習やノートを振り返らせる。